

◆南河内地区小・中学校教育研究会図書館部会

地区年間の取組み

【5月】地区専門委員会

→地区部長、副部長選出

地区研究テーマ、年間計画決定

【6月】大阪府SLA総会・事業部会

【10月】大阪府青少年読書感想文審査会

→事業部として審査会を運営

【11月】地区研究集会(羽曳野市)

府市合同学校図書館研究集会

【12月】読書感想文コンクール表彰式

【1月】大阪府青少年読書感想画審査会

地区研修会(河内長野市)

第1回はぐくみ編集委員会

【2月】読書感想画コンクール表彰式

第2回はぐくみ編集委員会

【3月】大阪府SLA合同会議

→本年度の総括・来年度に向けて

各市町村の取組み松原市

1、研究目標

- ・読活動についての研究を深める。
- ・各学校の実践を交流し、図書館活動の活性化を図る。

2、活動内容

月日	活動	おもな内容
5/22	総会	役員選出、研究目標の決定 年間計画の作成
6/12	読書活動 関係者連 絡会	各校の図書担当教員+図書館 司書+図書ボランティア+松原 市教委合同の交流会
9/11	読書感想 文市内審 査会	読書感想文コンクール市内審 査および作品選出
10/23	審査会	読書感想文コンクール
11/27	地区研	羽曳野市による南河内地区小 学校教育研究会に参加
1/22	地区研	河内長野市による南河内地 区小学校研究会への参加
2/12	総括	来年度の課題や来年研修した い内容の交流

3、成果と課題

【成果】

・今年度6月に松原市教委主催で「読書活動関係者連絡会」を初めて実施した。読書活動に関わる市内の関係者が一堂に会して交流を行った。市・学校・地域が一体となった有意義な会となった。

【課題】

・地区研等の参加率が少ない。学校現場が忙しく、なかなか出張に行けない実態が浮き彫りになった。

※以下はR5年度の活動

各市町村の取組み羽曳野市

1、研究主題

- ・こどもが喜びを感じ、学ぼうとする意欲を育てる
図書館教育

2、活動内容

- 5月 総会・専門部会
- 6月 令和6年度地区研修会に向けての話し合い
- 7月 情報活用とシンキングツールの研修
- 9月 青少年読書感想文コンクールの出展作品選定
R6年度地区研修会に向けての話し合い

- 10月 研究授業指導案検討
- 11月 研究授業:高鷲小学校
- 12月 読書感想画コンクールの出展作品選定
- 1月 南河内地区研修会開催(駒ヶ谷小学校)
- 2月 今年度の活動の反省とまとめ

令和6年度地区研修会に向けての話し合い

3、成果

・今年度は高鷲小学校にて研究授業を持った。10月に指導案検討を持ち、授業者の授業に対する思いを先に共有することができた。さらに良いものにするため意見交換をし、11月の授業につなげた。

・今回の授業は、国語1年生教材「じどう車ずかんをつくろう」で、「じどう車くらべ」を学習した後、学校図書館を利用して調べたことを書く単元である。また、引用した本の名前を書く学習を通して、調べ学習の方法を学ばせるねらいがある授業であった。

・討議会では、授業者と図書館司書との連携として、事前準備における図書資料の選択・収集について方法の報告があった。「じどう車くらべ」の文章の書き方になった本や児童の興味を引きそうな本など資料の選定の工夫が見られたことを全体で共有できたので学びとなった。また、本も豊富に用意されており、授業者と図書館司書との連携の大切さを改めて感じる事ができた。図書の選定について多くの意見が活発に交わされ、子どもの学ぼうとする意欲を育てる図書館教育という研究主題にもふさわしい授業・討議ができた。

4、おわりに

研究授業を通して、授業者だけでなく図書館司書と連携して事前の準備を行い、実際の授業も共に指導にあたるということが、より深まる学習活動となることが示された。さらに、来年度の地区研修会へ向けての準備も同時並行に行い内容の濃い部会となった。

各市町村の取組み 河内長野市

1、本市の特長

- ・市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポート
- ・学校司書が配置されている
- ・市立図書館から、学習支援図書の貸し出しや配送を行っている
- ・絵本の広場

2、活動内容

- ・市教研図書館部会
- ・ミニビブリオバトル
- ・読書感想文コンクール市内審査
- ・読書感想画コンクール市内審査
- ・各校の読書活動の実践・交流
- ・市教委主催で、司書連絡会を実施している

3、学校図書館の具体的な活動例

- ・新入生へのオリエンテーション
- ・百科事典、図鑑、年鑑等の利用指導
- ・図書だより配布
- ・図書委員の活動
 - おおすすめ本のポスター掲示
 - 本の読み聞かせ
 - 新聞やPOPの作成
 - 福袋・本の処方箋
 - 読書週間の取組み
- ・帯・POPコンテストへの参加
- ・読書ノート活動 ・朝読の実施

4、学校図書館の蔵書管理方法

- ・蔵書データは、100%コンピュータ化(新刊は、納品後、ただちに登録)
- ・年に一度、蔵書点検を実施

5、学校図書館に関する特徴的なこと

- ・市立図書館での夏の展示
- ・卒業(卒業生向けブックリスト)の作成・配布
 - 市内司書全員で選書
- ・市内独自製作 読書ノート(小学生全員配付)
- ・ボランティアによる「おはなし会」(小学校)
- ・ベストブックバトル(小5中2)運営サポート

各市町村の取組み 大阪狭山市

1、研究テーマ

- ・子どもと本と学びをつなぐ

2、活動内容

5月	部長、副部長選出、年間計画作成
6月	eプラン、調べる学習コンクールの資料作り 研究授業「学校図書館を活用した授業作り」 東小学校(1年)
7月	読書感想文、読書感想画、 調べる学習コンクールの資料作り
8月	タイムリー研修
9月	読書感想文選考会
10月	学校図書館を活用した学習会
11月	地区研参加(松原市立松原北小学校)
12月	読書感想画を持ち寄り整理、学習会
1月	地区研参加(羽曳野市立駒ヶ谷小学校)
2月	年間計画見直し、まとめ

3、研究のあゆみ

①研究授業・・・学校図書館や市立図書館から図鑑や絵本を集めて用意し、生き物の身の守り方をそこから見つけ出せるように指導者が司書と準備しておくことで、児童が目的に応じて本を選び、その本の中からほしい情報を見つけ、自分のことばで表すことができていた。調べる活動を楽しみながら取り組む様子が見られた。

②読書感想文、レポートの書き方の新訂・・・昨年度まで使用していた「読書感想文の書き方」「レポートの書き方」の見直しをした。市内の各小学校において配布して活用できるように、学校図書館司書の協力のもとで著作権の確認を行い取り組むことができた。

③学習会・・・安野光雅「旅の絵本」、もりやまみやこさん「きいろいばけつ」、国語教材「はりねずみと金貨」を使い、本を楽しむ授業の展開例や子どもたちがさらに読書活動を広げられるような工夫について等学ぶことができた。

4、まとめ

・児童の読書量や貸し出し冊数を増やすための施策や学校図書館に関わる課題の解決に向けて取り組んできた。学校図書館や市立図書館を有効活用した実践事例の交流や学習会を今年度も継続できたことは、大きな成果と考えている。

・今後ともより多くの児童・職員に活用が広がっていくよう、研究をすすめていきたい。その研究成果を普及させていくことが、今後の課題であると考えている。

各市町村の取組み 東部

1、研究テーマ

- ・豊かな心と自ら学ぶ力を育てる学校図書館教育～学びを支える学校図書館

2、活動内容

月日	内容	会場校
5/10	・年間計画・予算の決定	かなん桜小
7/24	・読み聞かせ ・実技研修会	近つ飛鳥小
9/7	・読書感想文コンクールの作品選出	磯長小
11/16	・おすすめの絵本の紹介 ・「オーサー・ビジット」宮西達也さんと交流会の報告	磯長小
12/6	・読書感想画コンクールの作品選出	磯長小
2/15	・年度末の反省	磯長小

3、取組みについて

・7月に「かなんお話の会 どんぐりころころ」の牧村さんにお越しいただき、どんな絵本を選ぶか、読み聞かせをするときに気をつけたいこと等のお話をしていただいた。会の最後にはグループごとに読み聞かせをして、全員で楽しみながら交流を行った。

・11月には図書館部会のメンバー各自で持ち寄った、おすすめの絵本の紹介を行った。メンバー達は、話の内容に熱心に耳を傾けたり、絵本の挿絵を興味津々で見入ったりしていた。また、山田小学校で朝日新聞社主催の読書推進事業「オーサー・ビジット」が行われ、その報告会があった。

・昨年と同様に、9月は読書感想文の選定、12月には読書感想画の選定を行った。

4、次年度に向けて

- ・研究テーマについて

→次年度も引き続き同じ研究テーマで取り組む。

- ・研修内容について

→読み聞かせの実技研修を実施し、学びを深め、本の良さを子ども達に伝えていく。

各市町村の取組み 藤井寺市

1. 本市の特長

- ・市の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポート
- ・各小中学校に学校司書が配置されている
- ・保護者によるボランティア(ブックママ)活動
- ・蔵書の充実のため市費が配当されている
- ・図書室の環境整備(エアコンの設置など)の充実
- ・市立図書館との連携
- ・配送便、電算システムの連携による相互貸し借り

2. 活動内容

- 5月 総会 年間活動計画の決定
- 6月 おすすめの本のリストの作成
研修会「SEとしての実践と提案」
- 7月 市内全校児童に「おすすめの本のリスト」を配布
- 8月 指導案検討
- 9月 読書感想文コンクールの市内審査
- 12月 研究授業「すきなきょうかはなあに」
- 2月 1年間の活動のまとめ

3. 各校での具体的な活動例

- ・朝読書の実施(週1日)
- ・学校司書による読み聞かせ
- ・図書委員会による図書活動
- ・本の整理、貸出・返却の手続き、放送によるお知らせ、おすすめの本の紹介、低学年への読み聞かせ、読書週間の取り組み
- ・読書貯金の活用
- ・図書だよりの発行
- ・レファレンスサービス(調べ学習、読書のための資料提供等)

4. 学校図書館の蔵書管理方法

- ・平成28年度全小中校で電子化完了

5. 学校図書館に関する特徴的なこと

- ・ブックママによる図書室の環境整備や読み聞かせ
- ・市内図書ボランティアグループによるお話会やブックトーク(今年度は中止)

各市町村の取組み 富田林市

1. 研究テーマ

- ・子どもたちにとって、魅力ある図書館づくり
- ・図書を使った「学び」を深める授業づくり、利用しやすい学校図書館づくり

2. 活動内容

- 5月 専門委員等の選出、研究テーマの決定
- 6月 年間活動計画の決定
- 7月 読書感想文についての交流
- 9月 読書感想文の選定
- 10月 読書感想文コンクール審査会
司書教諭によるブックトーク研修
- 11月 地区研究集会(松原市)参加
府市合同研究集会参加
- 12月 読書感想文コンクール表彰式
読書感想画 選出
- 1月 読書感想画コンクール審査会
地区研修会(羽曳野市)参加
- 2月 読書感想画コンクール表彰式
年間のまとめ、次年度専門委員選出の確認

3. 来年度に向けて

- ・貸出システムを市同一のデジタル化したため、全体的(中学校で)に例年よりも貸出冊数が増えた。
- ・以前までは、借りた人・本・冊数の入力などは全て手書きだったため、延滞者の発見や、その作品を探すのに手間取っていた。デジタル化したことにより、誰がどの作品を、いつまでに返却すればいいのかなど、PCで情報をまとめられているので、学校司書の先生や、図書委員の仕事の負担がかなり軽減された。
- ・来年度も、図書の本の貸出冊数を増やすため、各校で働きかけていく。
- ・デジタル化をどこまで進めるか(デジタル図書を導入している県もあるため。富田林市では、環境的にまだまだ難しい)。